

“我的妈妈”と“我妈妈”的分析

勝川 裕子

0. はじめに

0.1 現代中国語では、人称代詞が領属性の定語になるとき、中心語が親族名称や所属機関を表す名詞であれば、“我妈妈”や“他们学校”的ように一般に構造助詞“的 (de)”は用いられない。一方、同様に人称代詞が領属性の定語になる場合でも、中心語が一般領有物を表す名詞であれば、“我的雨伞”や“你的书包”的ように、必ず“的”を介さなくてはならない。¹

このような「領属関係」を表す名詞二項接連における“的”的使用不使用に関して、なぜこのような表現上の差異が生じるのか、——特に定語を人称代詞に限定する根拠や、中心語を親族名称や所属機関に限定する根拠——について然るべき知見を提示した研究は少ない。また、“我妈妈”や“他们学校”的ように構造助詞“的”を介さない表現形式が存在する一方で、“我的妈妈”や“他们的学校”的ように“的”を介する表現形式も同時に存在する。この二つの表現形式は表現上等価であろうか。仮に等価でないとするならば、どのように使い分けがなされているのであろうか。

0.2 本稿では、“我妈妈”的ような人称代詞 (P) と名詞 (N) の直接結合からなる PN 構造が成立する根拠を、P と N の間に認められる「不可譲渡所有」に求めようとする従来の解釈を否定する立場から、“我妈妈”(PN) と “我的妈妈”(PdeN) を統語的、意味的側面から比較し、両者が明らかに異なる、独立した表現形式であることを論証していく。

1. PN構造と「不可譲渡所有」

1.1 人称代詞が名詞を修飾するとき、人称代詞 (P) と名詞 (N) の間には必ず「領属関係」が成り立つ。例えば、人称代詞“我”と名詞“铅笔”的間には領有者とその領有物という「領属関係」が存在している。現代中国語において、こ

のような「領属関係」を統語レベルで表現する場合、通常、人称代詞（P）と名詞（N）の間に構造助詞“的（de）”の介在を必要とし、“我的铅笔”のように PdeN の形式をとる。

しかし、以下の表現例に見られるように、同じ「領属関係」を表しながらも、構造助詞“的”を介さず、人称代詞と名詞が直接結合する表現形式（PN）も存在する。

(1-1) 我(的)妈妈	你(的)妹妹	他(的)哥哥	她(的)姐姐
我(的)儿子	你(的)爷爷	他(的)爱人	她(的)奶奶
(1-2) 我(的)朋友	你(的)老师	他(的)学生	她(的)同事
我(的)邻居	你(的)徒弟		
(1-3) 我们学校	你们单位	他们公司	她们年级
我们县	你们楼	他们组	她们科

表現例 (1-1)、(1-2) タイプは共に構造助詞“的”の介在する表現形式 (PdeN) と介在しない表現形式 (PN) の二通りが存在するのに対し、表現例 (1-3) タイプは通常、構造助詞“的”は介在せず、人称代詞と名詞が直接結合する。このような言語現象については、従来、人称代詞が領属性の定語になるとき、中心語が表現例 (1-1)、(1-2) のように親族名称や人間関係を表す語である場合、或いは表現例 (1-3) のように所属機関を表す語であれば、一般に構造助詞“的”は用いないと説明されてきた。しかし、何故に親族名称や帰属機関を表す名詞のみが、構造助詞“的”を介さず直接結合し得るのか。また、なぜ PN 構造と PdeN 構造の二つの表現形式が存在するのか、さらに、この二つの表現形式は如何なる関係にあるのかについて論及した先行研究は意外と少ない。

1.2 相原 1976 は、これらの問題に対し、「不可譲渡所有」(inalienable possession) の概念を導入し、統一的な説明を試みている。

「不可譲渡所有」の概念について杉村 1980 は、「名詞 Y は名詞 X の「不可譲渡名詞」であるというとき、それは名詞 Y の存在が名詞 X の存在を前提としており、名詞 Y と名詞 X との間に成立する関係を通してのみ自己の在り方を規定できる」²所有関係を指すと定義している。

相原 1976 は、表現例 (1-1) から (1-3) に挙げたような人称代詞 (P) と親族、集団の名称 (N) とが直接結合できる根拠として、「de を介在させて、de の意味機能の一つとして「所有・領属」の概念を顕在化せずとも、それは二項間の(名詞)連接によって十分表されている」ことを指摘し、親族、集団名称を“书、铅笔、雨伞”のような任意的な所有関係——所謂「可譲渡所有」——とは区別し、その対極にある必然的且つ恒久的な所有関係——所謂「不可譲渡所有」——に組み込んでいる。つまり、PN 構造は PdeN 構造同様「領属関係」を表すことを前提とし、その上で、P と N の関係が「不可譲渡」であるがゆえに“的”を介さずとも直接結合し得る、と主張するのである。従って、相原 1976 は PN 構造を PdeN 構造から “de” を「省略」した表現形式であるとみなしている。中川 1976 も基本的に相原 1976 と同じ主張をしている。³

しかし、杉村 1980 の定義に従えば、親族関係よりも更にア・プリオリに所有されているはずの身体部分などは、単独で “*我手/*你肚子/*他眼睛” することはできず、“我的手／你的肚子／他的眼睛” のように“的”を介在させなくてはならない。このような言語事実に対し、相原 1976 は ‘inalienable possession を文法カテゴリーとして考えるべき’ であり、さらに素性 [±alienable] は、各言語間において「それぞれの言語の話し手の精神構造における違いを反映するため、奇異な現象ではない」と主張しているが、果たしてそうであろうか。現代中国語では、所謂主述述語文 (“我胳膊疼”) において、S (全文の主語) と S' (述語部分の主語) の間に「所有—被所有、全体—部分」の関係が認められる⁴ことなどからも、身体部位名詞が inalienable ではないと断定することはできない。

湯 1987 は親族関係を、統語機能上以下のような相違が存在することを根拠として、一般的な領有関係とは区別している。⁵

- | | |
|--------------|----------------------|
| (1-4) 太太的眼鏡 | [妻の眼鏡] |
| 太太有(一双)眼镜。 | [妻は眼鏡を(一個)持っている。] |
| 太太有(一双)太阳眼镜。 | [妻はサングラスを(一個)持っている。] |

- | | |
|--------------|-----------------------|
| (1-5) 太太的父亲 | [妻の父] |
| ? 太太有(一位)父亲。 | [妻には(一人の)父がいる。] |
| 太太有一位很有钱的父亲。 | [妻には一人のたいへん金持ちの父がいる。] |

表現例（1-4）における領有者“太太”とその被領有物“眼镜”が所有動詞“有”を用いて、領属を表す文を作ることができるのに対し、表現例（1-5）における領有者“太太”と被領有者“父亲”は、直接所有動詞“有”を用いて表現することはできず、被領有者の前に必ず定語を必要とする。このような統語上の相違によって、湯 1987 は表現例（1-4）における“太太”と“眼镜”的関係を「可譲渡所有」、表現例（1-5）における“太太”と“父亲”的関係を「不可譲渡所有」と類分けしている。

しかし、湯 1987 の見解に問題点の残されていることは明らかである。表現例（1-5）における被領有者が“妹妹”や“儿子”的場合、“太太有(一位)妹妹／儿子”は自然な表現であり、無理なく成立する。ある人物が存在する以上、その父母、祖父母の存在は必須であり、その関係は原則的に誰もが有する必然的、且つ唯一不変の関係である。しかし、父母、祖父母同様、親族関係という範疇にありながら、“妹妹、姐姐、弟弟、哥哥、爱人、儿子、女儿……”のような関係には上記のような絶対的必然性は認められない。このように見てくると、“?太太有(一位)父亲”が不自然なのは、統語上の問題ではないことが明らかとなる。従って、親族関係をおしなべて「不可譲渡所有」とみなすことには無理がある。

1.3 Haiman 1985 は「領属関係」における「可・不可譲渡性」について、以下のような Cline が存在すると指摘している。⁶

(1-6) body parts > kinsmen > some other possessa

(1-6)において左端を占める身体部位は「不可譲渡所有」のプロトタイプであり、右側へいくに従い「可譲渡性」が強くなる。親族関係は身体部位と一般領有物の中間に位置し、各個別言語によって「可譲渡所有」であったり、「不可譲渡所有」であったりする。Haiman 1985 は、この Cline が基本的にはあらゆる言語に適用できる普遍的なものであり、この順序が入れ替わることはないと指摘しているが、これは要するに、親族関係が「不可譲渡所有」として扱われる個別言語では、身体部位は必ず「不可譲渡所有」として扱われるという規則性が存在することを示唆している。しかし、現代中国語では“我妈妈”は成立しても、“*我手”は成立し得ず、Haiman 1985 の提唱する Cline には当てはまらない。現代中国語は、世界の言語の中でも特異な言語なのであろうか。

1.4 次章からは、以上述べた問題点を解明すべく、先ず、PN構造がPdeN構造から“de”を省略した表現形式であるかどうかについて考察し、次にPN構造がPとNの不可譲渡な「領属関係」を表す表現形式であるかどうか、もしそうでないとしたら、PdeN構造とはどのように異なる表現形式であるかについて分析を試みる。

2. “我的妈妈”と“我妈妈”

2.1 従来、“我妈妈”的ようなPN構造は、PdeN構造（“我的妈妈”）から“de”を「省略」した表現形式であるとされ、PdeN構造が特に「領属関係」を強調する表現形式であることを除けば、両者は知的意味が同一であり、共に「領属関係」を表す表現形式であるとされてきた。このように、PN構造がPdeN構造から“de”を「省略」して産出された表現形式であるとするならば、発話環境に関わらずPN=PdeNが成り立ち、相互入れ替えの可能な表現形式であることになる。

2.2 そこで先ず、「省略」の概念について考えてみる。朱徳熙 1982 は現代中国語における「省略」現象の例として、以下のような表現例を挙げている。⁷

(2-1) 我昨儿买一自行车。 [私は昨日自転車を一台買った。]

(2-2) 手里拿一瓶儿。 [手に瓶を一本持っている。]

表現例 (2-1)、(2-2) は北京語の口語であるが、北京語では数詞が名詞を直接修飾できる場合がある。朱徳熙 1982 はこのような言語現象を「省略」とみなしているのだが、これは「数詞は量詞を伴わなければ名詞を修飾できない」という統語的制約が存在するためであり、今ここで量詞が用いられていないのは、「省略」と認めざるを得ないからである。本稿では「省略」を朱徳熙 1982 に従い、「構造上不可欠な要素が一定の文法的な条件の下で現れていない」という意味で用いることにする。この定義に従えば、“我妈妈”(PN構造) は “我的妈妈”(PdeN構造) から“de”を省略した表現形式であるとみなすことはできない。なぜなら “我的妈妈”における“的”は構造上不可欠な要素ではないからである。

また、朱徳熙 1982 は「省略」について、省略された要素は、原則的に復元可能

なものでなくてはならないことを指摘している。つまり、PN構造とPdeN構造は相互入れ替え可能であり、且つこの二つの表現形式は同一の意味を表すものでなければならない。しかし、以下に挙げる表現例からも分かるように、PN構造とPdeN構造が必ずしも相互入れ替えのできないことは明らかである。

(2-3) 那时他的朋友都已晓得他的喜事——他住的一所房子原是公寓之类：
楼上有好几个朋友们同住——哄着来看他。（朱自清：《别》）

[その時彼の友人は皆すでに彼が結婚することを知っており——彼の住んでいる家はもともとアパートの類で、上には数人の友人が住んでいた——ガヤガヤと彼に会いにやって来た。]

(2-4) 那女孩子看着天上：“我没说他是好人。”不过不管怎么样，她总希望有人来做她的朋友，有人来看她。（张天翼：《夏夜梦》）
[その女の子は空を見ながら(言った)：「彼はいい人だなんて言ってないわ。」しかしいざれにせよ、彼女は誰かが彼女と友達になり、会いに来てくれるのをいつも望んでいた。]

(2-5) 他爸爸实际上是他的叔叔。
〔彼の父は、実際は彼の叔父である。〕
(张敏 1998 作例)

(2-6) 他的爸爸实际上是他叔叔。
〔彼の父は、実際は彼の叔父である。〕
(张敏 1998 作例)

従来の解釈によれば、表現例(2-3)における“他的朋友”は“他朋友”に置き換える事ができるはずである。しかし、“? 那时他朋友都已晓得他的喜事”とするととたんに不自然な文になってしまう。同様に表現例(2-4)においても、“她的朋友”を“她朋友”に置き換え、“? 她总希望有人来做她朋友”とすると不自然になってしまふ。また、表現例(2-5)と表現例(2-6)は、それぞれPN構造とPdeN構造を入れ替えた表現形式であり、従来の解釈に従えば、その表す意味は等価でなければならないが、実際にはそうではない、と張敏1998は指摘している。

今ここに、“張二”と“張三”的兄弟が存在し、“他”はそのどちらかの子供であるとすると、表現例(2-5)は、「彼が“爸爸”と呼ぶ人物は、実は彼とは叔父と甥の関係にある」ことを表す。従って、“他”的実の父親は“張二”であり、“他”は“張三”と養子縁組をしている、という構図が設定できる。一方、

表現例（2-6）は、「彼の（実の）父親は、彼が“叔叔”と呼ぶ人物である」ことを表している。つまり、“他”的実の父親は“張三”であり、“他”と“張二”とは養子縁組の関係にあることを表しており、表現例（2-5）とは全く異なる人間関係を構成している。

このように、言語事実として PN 構造と PdeN 構造は相互入れ替え自由でもなければ、また知的意味が同一でもない。従って、PN 構造を PdeN 構造から “de” を「省略」した、PdeN 構造に付随する表現形式であるとみなすことはできない。PN 構造と PdeN 構造は明らかに独立した二つの表現形式なのである。

2.3 ここでは、PN 構造と PdeN 構造の用いられる表現形式について、その統語的・意味的特徴を考察していく。

表現例（2-3）では、“都”が用いられていることから、“他的朋友”は複数の“朋友”であることが分かる。一方、“？那时他朋友都已晓得他的喜事”が不自然であるのは、“他朋友”と複数を表す副詞“都”が共起できないからであり、従って、“他朋友”は単数——即ち一人の“朋友”——しか表し得ないことが窺い知れる。

表現例（2-4）では、“有人来做～”より、“她的朋友”は不定の存在であることが分かる。つまり、表現例（2-4）は、現在既に交流のある、特定の“朋友”についてではなく、将来の、まだ見知らぬ不定の“朋友”について述べた文章である。一方、“？她总希望有人来做她朋友”が不自然であるのは、“她朋友”が特定の人物しか示し得ず、従って、“有人来做～”とは共起しにくいからである。

このように見えてくると、PdeN 構造は単数／複数、定／不定を問わない表現形式であるのに対し、PN 構造は単数且つ特定の存在しか表さない、人物確定度の高い表現形式であることが分かる。

また、PN 構造（“我的妈妈”）と PdeN 構造（“我的妈妈”）には、共に単数且つ特定の人物を表し、文中において相互入れ替え可能な場合が存在するが、それは“爸爸／妈妈／爷爷／奶奶……”等、自分を基準にしてそれよりも上の世代が、通常一人につき一人づしか存在しないことが前提となっているからである。以上の考察から、表現例（2-7）における“她的妈妈”は“她”と“妈妈”の間の「領属関係」を述べる不定の表現であることにより、“她妈妈”に置き換えることはできない。

(2-7) 橙子的妈妈在世的时候，和于虹阿姨象亲姐妹一样。她妈妈死了以后，她就把于虹阿姨当作她的妈妈，于虹也把她当作自己的女儿。……（吴强：《灵魂的搏斗》）

[橙子の母が生きていた頃、(橙子と)于虹おばさんは実の姉妹のようだった。彼女の母が亡くなった後、彼女は于虹おばさんを母親のように思い、于虹もまた彼女を自分の娘のように思った…]

因みに、“她妈妈死了以后……”の“她妈妈”は“橙子的妈妈”を指しており、单数且つ特定の人物を示していることは言うまでもない。

3. PN構造におけるPの意味役割

3.1 前述のように、PdeN構造が单数／複数、定／不定を問わない表現形式であるのに対し、PN構造は单数且つ特定の人物しか表し得ない。このように、PN構造とPdeN構造は、統語的にも、意味的にも異質な特徴を有することから、PN構造はPdeN構造から“de”を「省略」した、PdeN構造に付随する表現形式であると解釈することはできず、PN構造とPdeN構造は明らかに独立した二つの表現形式であることは既に述べた通りである。

3.2 従って構造的には、PdeN構造は人称代詞(P)が“的”を伴い名詞(N)を修飾する統語型偏正構造であり、一方、PN構造は人称代詞(P)が直接名詞(N)を修飾する粘着型偏正構造であると捉えることができる。⁸これは表現例(1-3)タイプのPN構造“我们所／他们组”において、人称代詞(P)とその所属機関(N)の間に“的”を用い、“*我们的所／*他们的组”とすることができないことからも、PN構造が粘着型偏正構造であることが裏付けされよう。また、朱德熙1982は「粘着型偏正構造の機能は一個の単独名詞に相当し、凡そ単独名詞が現れ得る場所には、常に粘着型偏正構造も現れ得る」ことを指摘しているが、以下に挙げるような同格偏正構造において、(固有)名詞とPN構造を置き換えることができることからも、PN構造が粘着型偏正構造であることは明らかである。

(3-1) 张三这个人／老王那个人／李四这个家伙

(3-2) 我朋友这个人／他爸爸那个人／你哥哥这个家伙

表現例（3-1）における“张三／老王／李四”は、それぞれPN構造“我朋友／他爸爸／你哥哥”に置き換えることができる。これを朱徳熙 1982 の言葉を借りて表現するならば、PN構造はひとつの単独名詞に相当することになる。一方、表現例（3-3）は全て不成立であり、従ってPdeN構造はPN構造とは異質な偏正構造——即ち統語型偏正構造——であることが窺い知れる。

(3-3) *我的朋友这个人／*他的爸爸那个人／*你的哥哥这个家伙

3.3 次に意味的には、“我的书”や“她的雨伞”などにおける人称代詞“我／她”と名詞“书／雨伞”的表す関係から分かるように、PdeN構造が人称代詞(P)と名詞(N)の間の「領属関係」を表す表現形式であることに間違いはない。従って、“我的妈妈”は“我”と“妈妈”的「領属関係」を表す表現形式である。

しかば、PN構造もPdeN構造と同様、「領属関係」を主張する表現形式であろうか。杉村 1999 はPN構造が使用される発話環境について以下のような表現例を挙げている（表現例の番号は筆者による）。⁹

(3-4) “笃、笃、笃”，有人敲门。我去开了门，是个同弟弟差不多大的姑娘：运动头，粗黑的眉毛，很有神采的一对眼睛，厚厚的嘴唇。

“我找彭晓雷。”

“他不在家。”

“我等他。”

不等我让，她就主动进来了。她很熟练地进到弟弟的屋里（一定是我不在家时，弟弟带她一块来过），把手里的“痰盂包”撂到曾经是我的床铺 现在是弟弟的杂货摊上 转身坦然地自我介绍说：

“我叫朱瑞芹，跟晓雷同厂。我是车工。”

“你好……”我该怎么对待她呢？“你坐吧，不过，我弟弟不知道什么时候才回来。”
(刘心武：《醒来吧，弟弟》)

〔「トントントン」と誰かがドアをノックした。行ってドアを開けると、弟と同じくらいの年の女の子だった。ショートカットに太くて黒い眉、はつらつとした目にぱってりとした唇だ。〕

「彭晓雷はいます？」「いません。」「じゃあ、待つわ。」

私が招き入れる前に、彼女は勝手に入ってきた。彼女は慣れたように弟の部屋

に入り(きっと私がいない時に弟が連れて来たことがあるのだろう)、手を持っていた「痰入れ」をかつては私のベッドであったが、今は弟の物置となっている所に放り投げると、振り返り平然と自己紹介した。

「私は朱瑞芹、晓雷とは同じ工場よ。施盤工なの。」

「こんにちは…」私は彼女とどう接するべきだろうか?「座って。でも弟はいつ帰ってくるかわからないよ。」

杉村 1999 は、表現例 (3-4) において、“我”と“我弟弟”二人だけの世界で話が展開するとき、“我弟弟”は単に“弟弟”と称されているが、そこに非親族の第三者¹⁰（ここでは“你（朱瑞芹）”）が介入してくると、隠れていた“我”が顕在化して“我弟弟”となると指摘している。これと同様に、表現例 (3-5) は貴い子の寝顔を見ながらの台詞であるが、“姐夫”（第三者）の存在が“我”を要求している。一方、“姐姐，你快来看呢！”では意識が姉妹二人だけの世界に切り替わっているため、“我”は必要なくなるのである。

(3-5) “哎呀，姐夫”金枝发现了什么似地叫起来，“这孩子跟你们真是有缘呢！你看，他这眉毛多像你，他这嘴巴，多像我姐姐！姐姐，你快来看呢！……” (陈建功・赵大年：《皇城根》)

〔「まあ、義兄さん」金枝は何かを発見したかのように叫んだ。「この子、あなたたちとほんとうに縁があるわ。ほら、この眉、なんて義兄さんに似てるのかしら。この口元、なんて姉さんに似てるのかしら！姉さん、早く来て見てよ！…」〕

3.4 そもそも、現代中国語において、親族間で用いられる親族呼称は絶対的なものではない。例えば、母親が自分の子供に対し、子供の父親——即ち夫——を“你爸爸”と呼び、自分の父親を“你老爷”と呼ぶことは極めて自然な現象であるが、これは親族呼称なるものが、発話者——ここでは母親——を中心とした絶対的な関係呼称ではなく、子供を中心に据えて使用されているからであり、この点において、現代中国語における親族呼称は相対的な関係呼称であると言うことができよう。

このような親族呼称の特徴を踏まえて、再度“妈妈”、“我妈妈”、“我的妈妈”的三つの表現形式がどのような関係にあるか考えてみる。

先ず、領属に対して無標の“妈妈”は、第三者を意識しない状況で用いられるが、ここに第三者が介入してくると、“妈妈”的属性を確定する指別者として

の人物代詞“我”が要求される。つまり、発話において“妈妈”と“我妈妈”は、「第三者の介入」という条件を基準に、人物代詞の帶不帶が選択されるのである。張敏 1998 は、PN 構造における P（人物代詞）について、指示詞“这／那”に類似する機能を有することを指摘している¹¹が、「言語一般において、指示詞の本来的な役割が、話し手との位置関係において相手を相対的に場の中に位置付ける或いは定位することである」¹²とすれば、PN 構造における P（人物代詞）は話し手との人間関係において相手を相対的に場の中に位置付ける役割を果たしている、と言うことができる。このような PN 構造における P の指別機能は、表現例 (1-3) に挙げたような人物代詞 (P) と所属機関 (N) が直接結合する表現形式において、更に明確に体現化されている。¹³以上の考察から、PN 構造は「領属関係」を主張する表現形式ではないことが分かる。

一方、人物代詞に構造助詞“的”を伴う PdeN 構造は、先に述べたように、「領属関係」を明確に主張する形式であり、修辞上のレベルに属する表現形式である。従って、PdeN 構造は、“妈妈”、“我妈妈”的二つの表現形式と同じパラレルに存在する表現形式であると捉えることはできない。

このように PN 構造における P（人物代詞）を、人間関係の混同を防ぐために加えられる指別マーカーとして捉えると、従来の「PN 構造不可譲渡所有説」¹⁴で例外とされてきた “*你手／*他肚子” などが単独で用いられない理由が自ずと明らかになる。“你”と“手”、“他”と“肚子”は、「全体とその一部分」という極めて同一性、一体性の高い関係にあり、その関係が混同する可能性は低く、わざわざ指別する必要がないからである。

4. おわりに

4.1 従来 PN 構造は、第一義的に「領属関係」を表す PdeN 構造がその母体として存在し、しかも P と N の関係を「不可譲渡所有」関係であると捉えることにより、「領属関係」でありながら “de” を用いなくとも P と N を直接結合することができる、と解釈されてきた。所謂「PN 構造不可譲渡所有説」である。しかし、この説には問題点、矛盾点が多く、PN 構造を「不可譲渡所有」の言語的表層化であると捉えること自体が問い合わせなければならない。

4.2 そこで本稿では、“我妈妈”的ような PN 構造の成立根拠を P と N の間に認められる「不可譲渡所有」に求めようとする従来の解釈を否定する立場から、

“我妈妈”(PN)と“我的妈妈”(PdeN)を統語的・意味的側面から比較し、両表現形式が相互入れ替え可能ではなく、また、意味的にも等価でないことを根拠に、両者が全く異なる、独立した表現形式であるとの見解を提示した。そしてPN構造におけるPは、「領属関係」を主張するものではなく、人間関係の混同を防ぐために加えられる指別マーカーであることを論証した。

なお、本稿では言及しなかつたが、「空間関係」を表す際、“*桌子的底下”ではなく、“桌子底下”的ように“桌子”と“底下”が直接結合する理由も同様に解釈することができる。つまり、“桌子”により“底下”が「相対的に場の中に位置付けされる或いは定位される」と捉えるのである。「相対的に場の中に位置付ける或いは定位する」ためには常にその基準となるものが要求されるが、“我妈妈”における“我”、“桌子底下”における“桌子”——即ちPN構造におけるP——がその基準となる参照物として機能しているのである。「空間関係」に関する詳細な分析は他稿に譲ることとする。

註

1 文の内部に含み込まれる場合はこの限りではない。例えば、以下に挙げる表現例では、構造助詞“的”を介在せずとも成立すると朱徳熙1982は指摘している。

- 你眼镜呢？ [あなたの眼鏡は？]
- 把他自行车骑走了。 [彼の自転車を乗っていってしまった。]

以下本稿で扱うPdeN構造は、特に明記しない限り単独での発話として議論を進める。

2 杉村 1980: 22頁。

3 中川 1976: 53頁。

4 主述述語文には、本稿で指摘したような、SとS'が「全体一部分」の関係にあるタイプ以外にも、S(もしくはS')が後に続く動詞の受動者であるタイプ(“那条鱼猫吃掉了”)や、Sが道具であるタイプ(“这副眼镜我看书用”)なども含まれる。詳しくは、朱徳熙1982: 106-108頁参照。

5 汤1987は同様の根拠に基づき、親族関係の他にも、人と身体部分の関係、方位関係を「不可譲渡所有」に挙げている。

6 Haiman John 1985: 130-136頁。

7 朱徳熙 1982: 220頁。

8 「統語型」、「粘着型」という術語は、朱徳熙1982において紹介されている“組合式”、“粘合式”的訳語である。朱徳熙1982はPN構造もPdeN構造も共に“組合式”であると捉えている。

9 杉村 1999: 58-60頁。

10 第三者とは主に非親族であるが、状況次第では親族の場合もあり得る。例えば、三世代から構成される文脈での“爸爸”、“妈妈”等は、非親族を介入しない発話

においても人称代詞の修飾を要求する、と杉村 1999 は指摘している。

11 张敏 1998 : 344 頁。

12 木村 1990 : 43 頁。

13 例えば、“我们学校”は“我们”が“学校”的属性を規定し、指別しているため、“哪个学校？”のような疑問文に対する答えとして用いられる。一方、“我们的学校”のような「領属関係」を主張する表現形式は、領属先を明確に問う“谁的学校？”のような疑問文に対する答えとして用いられるであろう。

14 § 1. 参照。詳しくは、相原 1976. 汤廷池 1987. 参照。

参考文献

- 相原 茂 1976. 「構造助詞 “de” の省略可能性」, 『漢文学会会報』 No.35, 東京教育大学漢文学会, 1–13 頁。
- 木村英樹 1990. 「中国語の指示詞—「コレ/ソレ/アレ」に対応するものー」, 『日本語学』 3 月号 vol.9, 明治書院, 39–47 頁。
- 杉村博文 1980. 「所有不可能名詞」, 『中国語学』 227 号, 22–25 頁。
——— 1990. 「中国語と日本語の名詞連接表現比較」, 『大阪外国语大学論文集』 第 4 号, 99–110 頁。
——— 1999. 「“我妹妹”と“桌子底下”」, 『中国語』 5 月号, 内山書店, 58–60 頁。
- 中川正之 1976. 「日中両国語における譲渡不可能名詞について」, 『中国語学』 223 号, 52–58 頁。
- 陈琼璇 1955. 〈修饰语与名词之间的“的”字的研究〉, 《中国语文》, 22–27 頁。
- 陆丙甫 1988. 〈定语的外延性、内涵性和称谓性及其顺序〉, 《中国语文丛书 语法研究和探索 (四)》北京大学出版社), 102–115 頁。
- 汤廷池著 松村文芳訳 1987. 『中国語学研究叢書 2 中国語变形文法研究』白帝社。
- 张 敏 1998. 《认知语言学与汉语名词短语》中国社会科学出版社。
- 朱德熙 1982. 《语法讲义》商务印书馆。
- Haiman, John 1985. *Natural Syntax: Iconicity and erosion.* Cambridge : Cambridge University Press.